

“総合的な探究の時間”における自律的な探究の評価

令和4年度入学

熊本大学大学院 教育学研究科

教職実践開発専攻 教科教育実践高度化コース

佐澤 惇生

研究報告書要旨

本研究は自律した子供の育成を目指し、高等学校の総合的な探究の時間における「自律的な探究」の評価について考察するものである。「自律的な探究」の観点と探究活動における評価の検討を通して、「自律的な探究」において期待される具体的な生徒の姿を明らかにし、探究活動における自律的な姿を評価するための枠組みを考察することを目的とする。

本報告書は、4つの章からなる。第1章では変化の激しい社会において教育に求められることとして、生徒が自ら学習を改善し、自律的に行動するような学びの機会を示している。探究的な学習はそのような学びの機会として位置付けられている。高等学校における探究的な学びの中心となる総合的な探究の時間は、探究の一連の学習活動を通して、「高度化し、自律的に探究を行うこと」が求められている。一方で、総合的な探究の時間の課題として、探究の評価に対する課題や「自律的な探究」の姿が不明瞭であることなどの課題が挙げられる。そのため、本研究では、「自律的な探究」が表す具体的な姿を明らかにし、「自律的な探究」を評価するための評価枠組みについて考察することを目的とする。

第2章では、「自律的な探究」の評価の考察に向けて、先行研究を整理している。まず、教育における自律と他律の議論を踏まえて、探究活動における自律を「多様な他者や社会との関わりを通して、自らの規範を形成し、それに従って探究を進めること」と定めている。次に、文部科学省の資料における記述の検討を踏まえて、「自律的な探究」において具体的に期待される生徒の姿を6つの姿（①-1 課題の自分ごと化、①-2 自己理解・将来展望、②-1 自己調整、②-2 粘り強さ、③-1 社会参画意識の醸成、③-2 社会貢献）として示している。また、総合的な探究の時間の学習評価における評価規準及び評価方法の在り方について、先行研究や実践事例をもとに整理している。

第3章では、実践協力校の探究の概要と探究に取り組む具体的な生徒の姿を示している。観察された生徒の姿を「自律的な探究」の具体的な6つの姿に照らして分析している。その結果、探究の過程の様々な場面でそれぞれの姿が確認された。また、グループでの探究活動において、個々の生徒の自律の姿を評価することに関する課題を述べている。

第4章では、「自律的な探究」の評価枠組みに関する考察を述べている。まず、「自律的な探究」の評価規準として、これまでの考察を踏まえたルーブリックを作成し、その詳細について論じている。また、具体的な評価方法について、教師による観察、生徒による振り返り、ポートフォリオ評価法などについて、その評価場面や留意点とともに考察している。本研究の成果としては、『「自律的な探究」について検討し、具体的な生徒の姿を明らかにした点』と「一定の汎用性を備えた評価枠組みを考察することができた点」を挙げている。今後の課題としては、本研究で考察した評価枠組みについて学校現場で評価を実践し、その有用性や改善点を検討することである。また、様々な学校に適用させ検討を重ねることで、目的に応じた実用性と汎用性を兼ね備えた評価枠組みの開発を目指していく。